

# NOSAIの麦生育情報



WELCOME No. 1

平成20年 4月10日  
神奈川県農業共済組合

## 麦の凍霜害の危険と赤かび病の注意点について

### 1. 麦の凍霜害

- ・ 4月1日～2日は各地で降霜が見られ、低温となりました。この時期に氷点下の低温になると、麦凍霜害の危険性が高くなります。
- ・ この時期の麦凍霜害は、11月中にまいた大麦・小麦に被害の危険性が高く、12月遅まきの大・小麦にも危険性があります。
- ・ 11月まきの被害の幼穂枯死、12月まきの被害は幼穂の枯死までに至らず、部分不稔の危険性があります。
- ・ 麦の生育は1月～2月の低温の影響から、平年より多少遅れているものと思われます。

(注) 麦が伸び始める「茎立ち期」以降に、地表面から3cm程度の気温が氷点下になると幼穂に障害が生じます。最低気温が氷点下2℃以下で被害が発生し、氷点下7℃以下で被害が大きくなります。

### 2. 栽培管理の留意点

- ・ 大麦は4月上中旬に(11月中旬まきで出穂直前～出穂始め)に追肥(窒素成分で10a当たり2～3kgを基準)を行い、粒数の確保と登熟促進を図ります。
- ・ 小麦は4月上旬(11月中旬まきで出穂25日～15日前)に追肥(窒素成分で10a当たり2～3kgを基準)を行い、粒数の確保と登熟促進を図ります。とくに「農林61号」では品質向上のために追肥を行いましょう。

### 麦の生育・成熟平年値

(農業技術センター畑圃場 平塚市上吉沢)

麦種 (品種)	播種期 (平年)	出穂期 (平年)	成熟期	成熟日数	登熟積算 温度	成熟期の生育状況
大麦 (カシマムギ)	11/15	4/10	5/24	43日	730	大方の穂が湾曲し、ノゲや穂の一部に緑色が残っていて、概ね穂が黄熟した状態
小麦 (農林61号)	11/15	4/22	6/9	48日	880	止め葉の一部を残し茎葉がほぼ枯れ上がり、概ね穂が黄熟し、一部の穂軸に薄い黄緑が残る状態

(注) 収穫適期判定法

- ・ 登熟日数：出穂後の日数
- ・ 登熟積算温度：出穂後の積算温度
- ・ 麦の生育状況：穂の成熟・色の変化(黄熟)程度・茎葉の枯れ上がり程度

2. 赤かび病

- ・ 出穂期以降の気温が高く、降雨が続いたりして湿った条件で感染しやすくなります。4月の気温は平年より高く、降水量も多い予想なので注意が必要です。
- ・ 最も感染しやすい時期は開花期頃、出穂始めの10日後からの10日間です。(大麦では4月下旬、小麦では5月上旬に当たります。)
- ・ 病原菌はかび(糸状菌)で、前年のわらや刈り株に付いていて、湿った環境で胞子を飛散し発病します。早い年で3月中旬から飛散が始まります。
- ・ 農薬を散布する場合は開花始め～開花期および開花後1週間の2回散布すると防除効果が高くなります。
- ・ 4月中旬～5月上旬の最高気温が22℃を超え、降雨または湿度が高い場合は必要に応じて農薬で防除を行いましょう。(トップジンM水和剤、ストロビーフロアブルなど)

(情報提供：農業技術センター普及指導部作物加工課)